

足立区民間保育園連合会 講演

子どもが中心の「共主体」の保育  
- 子ども・保育者・保護者がワクワクする保育へ -

大豆生田啓友 (玉川大学)

日本には『ぐりとぐら』があつて本当によかった



# 幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョン (はじめの100か月の育ちビジョン) 概要

令和5年12月22日 閣議決定

## はじめの100か月の育ちビジョンを策定し全ての人と共有する意義

幼児期までこそ、生涯にわたるウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に幸せな状態）の向上にとって最重要

- ✓誰一人取り残さないひとしい育ちの保障に向けては課題あり

※児童虐待による死亡事例の約半数が0～2歳／就園していないこどもは、家庭環境により、他のこどもや大人、社会や自然等に触れる機会が左右される

- ✓誕生・就園・就学の前後や、家庭・園・関係機関・地域等の環境間に切れ目が多い

⇒社会全体の認識共有×関連施策の強力な推進のための羅針盤が必要

**目的** 全ての子どもの誕生前から幼児期までの  
「はじめの100か月」から生涯にわたるウェルビーイングの向上

## こども基本法の理念にのっとり整理した5つのビジョン

### 1 こどもの権利と尊厳を守る

- ⇒こども基本法にのっとり育ちの質を保障
- ✓乳幼児は生まれながらにして権利の主体
  - ✓生命や生活を保障すること
  - ✓乳幼児の思いや願いの尊重

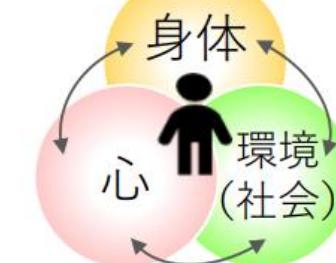
### 2 「安心と挑戦の循環」を通して子どものウェルビーイングを高める

⇒乳幼児の育ちには「アタッチメント（愛着）」の形成と豊かな「遊びと体験」が不可欠



#### 「アタッチメント（愛着）」<安心>

不安な時などに身近なおとなが寄り添うことや、安心感をもたらす経験の繰り返しにより、安心の土台を獲得



⇒全ての人のウェルビーイング向上にもつながる

#### 豊かな「遊びと体験」<挑戦>

多様なこどもやおとな、モノ・自然・絵本・場所など身近なものとの出会い・関わりにより、興味・関心に合わせた「遊びと体験」を保障することで、挑戦を応援

### 3 「子どもの誕生前」から 切れ目なく育ちを支える

- ⇒育ちに必要な環境を切れ目なく構築し、次代を支える循環を創出
- ✓誕生の準備期から支える
  - ✓幼児期と学童期以降の接続
  - ✓学童期から乳幼児と関わる機会

### 4 保護者・養育者のウェルビーイング と成長の支援・応援をする

- ⇒こどもに最も近い存在をきめ細かに支援
- ✓支援・応援を受けることを当たり前に
  - ✓全ての保護者・養育者とつながること
  - ✓性別にかかわらず保護者・養育者が共育ち

### 5 こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

- ⇒社会の情勢変化を踏まえ、子どもの育ちを支える工夫が必要
- ✓「こどもまんなかチャート」の視点（様々な立場の人が子どもの育ちを応援）
  - ✓こどもも含め環境や社会をつくる
  - ✓地域における専門職連携やコーディネーターの役割も重要



## 【「はじめの100か月」とは】

本ビジョンを全ての人と共有するためのキーワードとして、母親の妊娠期から幼保小接続の重要な時期（いわゆる5歳児～小1）までがおおむね94～106か月であり、これらの重要な時期に着目

## はじめの100か月の育ちビジョンに基づく施策の推進

- ✓ こども大綱の下に策定する「こどもまんなか実行計画」の施策へ反映
- ✓ 全ての人の具体的行動を促進するための取組を含め、こども家庭庁が司令塔となり、具体策を一体的・総合的に推進

## 事例①たかちゃんの話

- ・ 私が担任をした年長児。
- ・ かかわりが難しく、すぐに部屋から飛び出してしまう子。
- ・ 機械（メカ）や音楽が好き
- ・ クリスマスのペーパージェント（生誕劇）での役決め
- ・ どの役もやりたくない
- ・ たかちゃんがこれならやってもいいと言った役は？
- ・ それから、15年後・・・

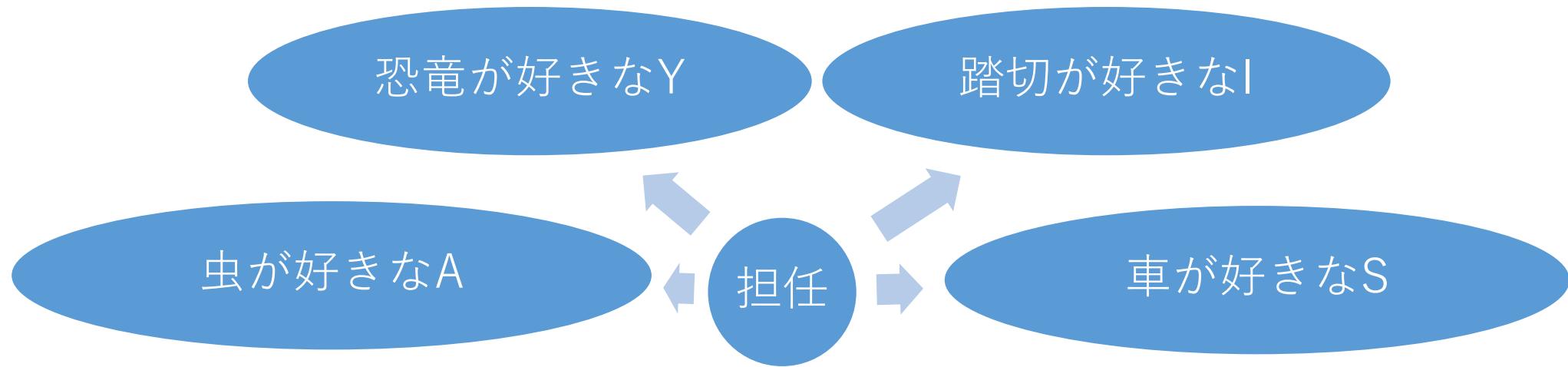


## 事例②虫のだっぴ

– 2歳児虫好きのAくんの姿から –



# 2歳児の様子



個性がいっぱいの2歳児。特に男児は個性的な子が多い。自分の気持ちを表すことが得意な子、すぐに手が出す子など気になる姿もたくさんいる。でも、それぞれの個性を大切にして、保育を行ってきた。すると、だんだんそれぞれの好きなことが見えてきた。お互にそれぞれの大好きな事を深めたり、友達同士、刺激しあえたらよいなと思う。

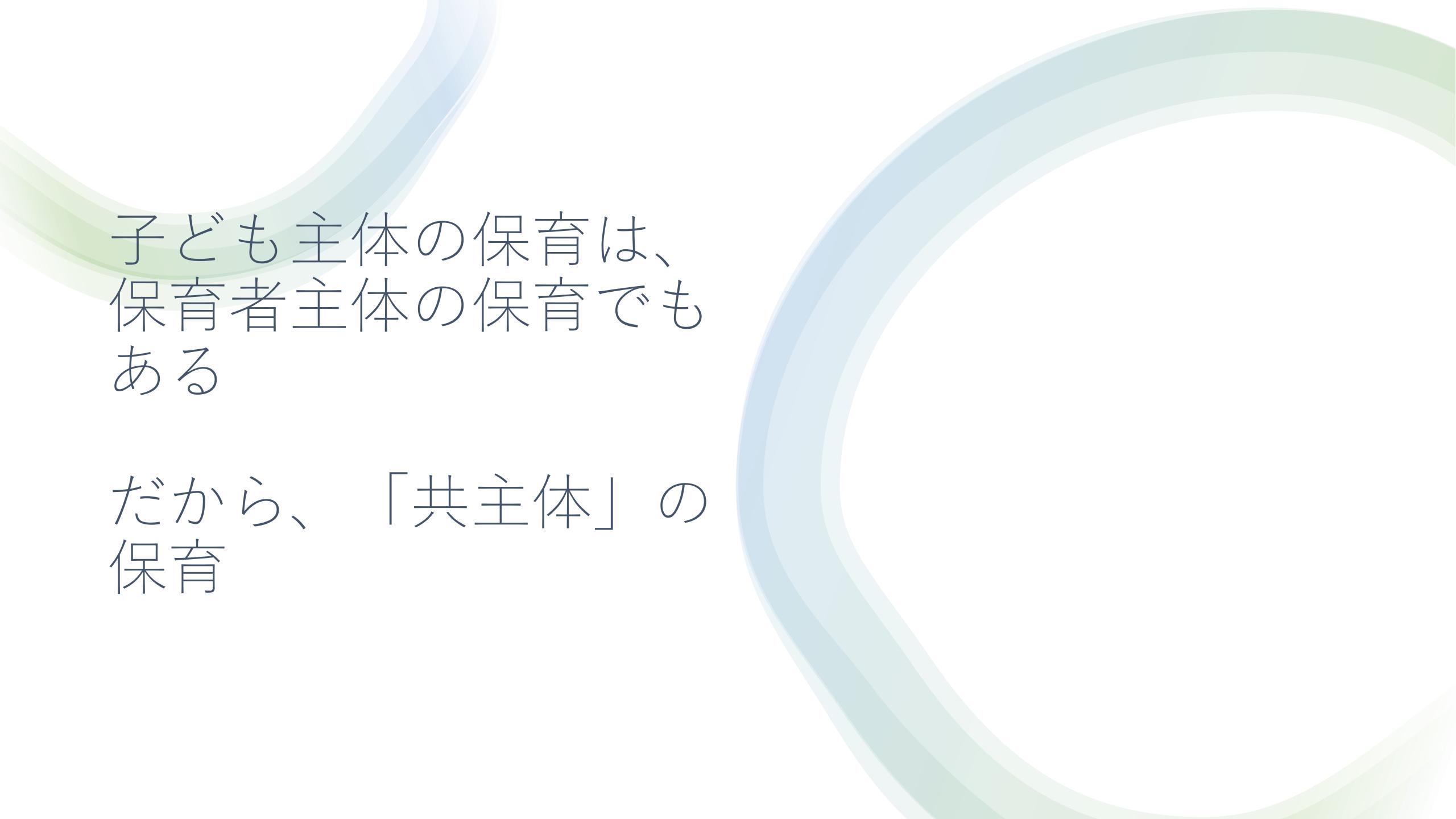
# 事例①虫の脱皮から学ぶこと

- ・「困ったちゃん」の中にも、その子の「よさ」をいかに見つけ出すか。  
その子の思いを理解しようとすること。→安心感、信頼感（養護）
- ・その子の好きなこと（興味関心）を発見し、それを保育者が大切にしていくと、その子のよさはもっと広がっていく。
- ・子ども達の興味関心がもっと面白くなっていくための環境の準備（それにつながる絵本や図鑑を出す。壁面に写真を貼る。それをつくれるような素材や道具を用意するなど）。子どもの姿から明日（来週）の計画へ
- ・その子の夢中になるブーム（もっと知りたい、もっと探したい、もっと試したい、等により）学びが生まれる。→主体的な学び（教育）・5領域、10の姿とのつながり
- ・誰かの面白い姿が魅力的に見えるから、他の子もそれを真似したいという広がり、育ち合いが起こる。
- ・子どものワクワクを保育者がワクワクしながら行っていると、子どもは愛おしく、保育は楽しくなる。そして、職場の人間関係の良好さ

「主体性」って、  
「積極性」や「自主性」（能力）って  
考えて  
いないでしょうか？

でも、「主体性」は  
「主体」を大事にすることだから、  
その子の「その子らしさ」を  
尊重することではないでしょうか？

その子とのかかわり（関係）の中で  
主体性を捉えることが大切です



子ども主体の保育は、  
保育者主体の保育でも  
ある

だから、「共主体」の  
保育



書名：子ども主体の保育を  
つくる56の言葉

「このままの保育でいいの？」と思ったときに読む本

著　：大豆生田啓友先生

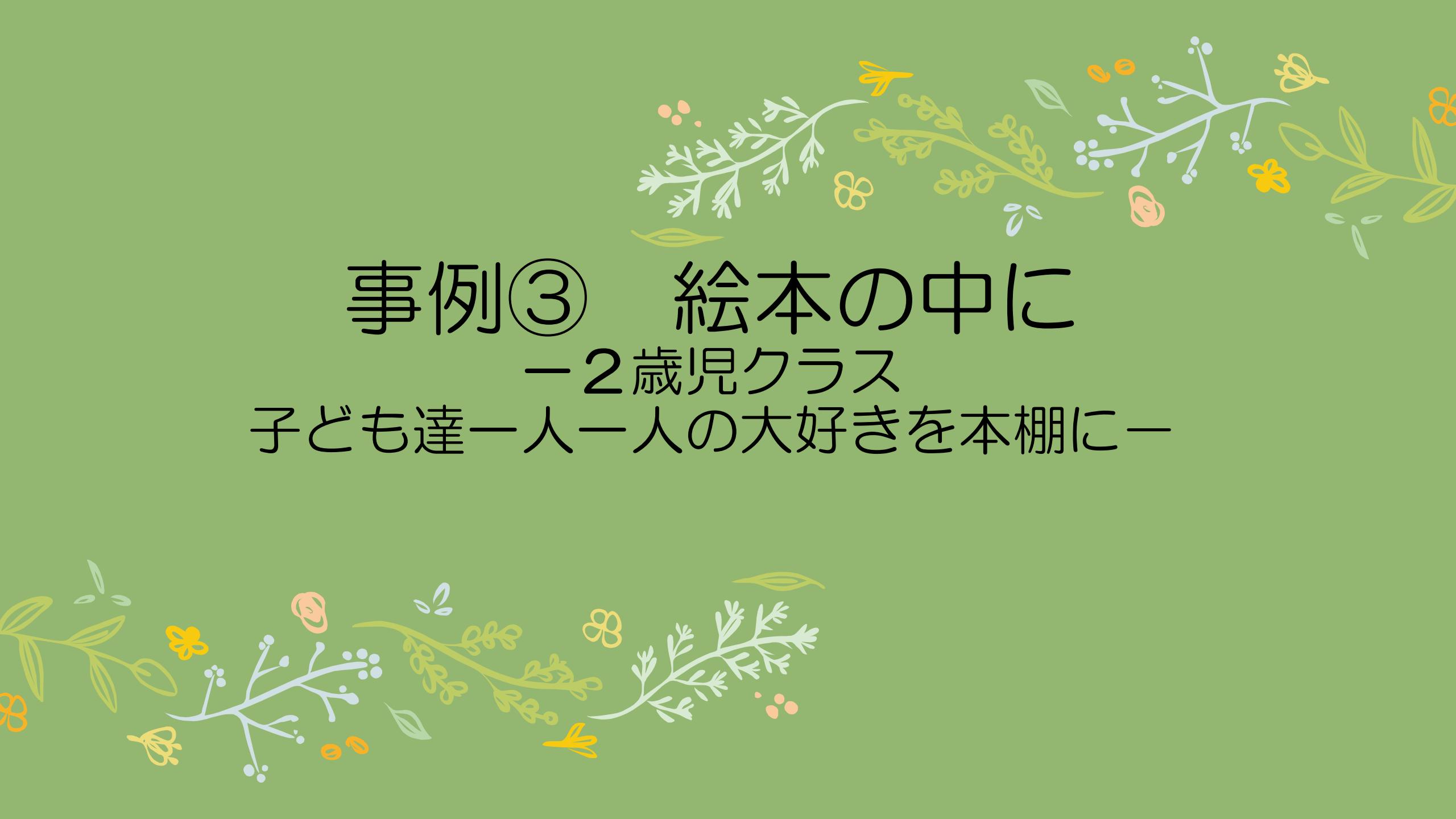
内容紹介：

今まで「これが当たり前」と思っていた保育を、「子ども主体の保育」の視点で捉え直してみると、どうなる？ 環境構成、遊び・生活、子どもとのかかわり…さまざまな場面を取り上げながら、保育の思い込みを見直します。明日の保育がより楽しくなる、ワクワクする保育へ、保育の質向上のヒントが詰まった一冊です。

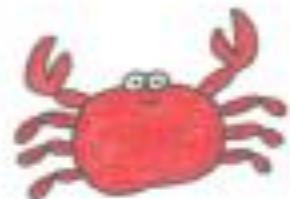
※全国の書店、ネット書店で好評発売中。

発売元：株式会社Gakken





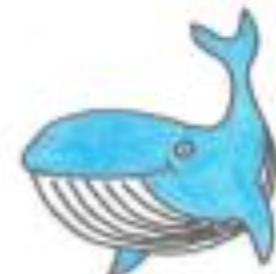
# 事例③ 絵本の中に —2歳児クラス 子ども達一人一人の大好きを本棚に—



# 絵本の中に！



子ども達、ひとりひとりの  
「大好き」を本棚に。



## 事例③から学ぶこと

- ・子どもの興味関心（マークが好き）を活かしていく保育。
- ・マークって自分のアイデンティティ。「私はイルカマークだよね」と私が私であることに愛着を持つことを大事にする保育。
- ・絵本というツールは子どもの興味関心を広げたり、深めたりする可能にする。
- ・異年齢クラスとの連携があること。年長児の魅力的な活動は小さな年齢のあこがれのモデルになる。小さな年齢はそれに触発されて興味関心が高まる。逆に、年長児は小さな子たちから興味を持たれることで自尊心が高まり、意欲的にそれに貢献しようと活動を活性化していく。これが、集団保育の大切なところ。
- ・年長児などでは、自分たちの経験した内容を絵で描いたり、言葉にするなどして「絵本」化、「図鑑」化する経験。



# 事例④ バスブームが生まれた！

—子どもの声から始まった協働的な活動（5歳児）—

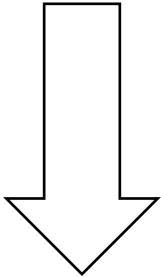


チャレンジテーマ

子どもの発見・気づきから  
始まる保育

# チャレンジテーマの設定理由

- ・子どもたちに寄り添い、子どもたちと一緒に保育者もワクワクする保育を行っていきたいと思ったため。



その為には、子どもたちが今、何を考えているのかに、保育者が  
気付けるように子どもの目線を追いかけることを意識して、  
毎日を過ごすようになりました。

## 事例④から学ぶこと

- ・二人の子の小さなつぶやきから協働的な活動は生まれた。
- ・興味関心をすぐに形につなぐため、**製作コーナーの常設**が重要。
- ・その声を早速、**サークルタイムでクラスで共有**。そこでの声から、地域に出向いてバス停を見に行く（**地域資源の活用**）。
- ・できた**作品（履歴・写真）**が掲示され、翌日もその**遊びが継続**する中で、**新たなアイディア**（バスづくり、道づくり）が次々と生まれ、より創造的で、協同的な活動へ。**環境の再構成**（子どもと保育者が新たな環境を作り、生み出していく）
- ・**担任のワクワク**だけではなく、**異年齢、同僚、保護者や、地域**の人も巻き込み、ワクワクが広がる（**共主体の保育**）。同僚や保護者との**対話ツール**としてのドキュメンテーション
- ・行事も子ども主体で、ブーム（興味関心）を活用



## 事例⑤ 5歳児本格ドレスづくり —保護者や地域も巻き込んで—



## 事例⑤から学ぶこと

- ・子ども達の興味関心から、魅力的な環境（大きな布）が準備され、一人一人の多様な関心が実現できること。
- ・誰かの興味関心が、他の子たちにも広がっていくこと。
- ・衣装への関心がさらに広がり、深まるような環境（衣装の本等）が出されることによる、広がり。
- ・これまでうまく自己発揮できにくかった子どもが、ある機会を通して自己発揮できる機会を大切にすること。
- ・子どもの姿を通して、保護者とのつながりが起こり、子どものワクワク、保護者のワクワクにつながること。
- ・衣装づくりへの関心から、異なったテーマ（絵本作り）へと転移していくこと（ブームは多様な学びへと広がる）。
- ・子ども達のブームが、多くの人たちと共有していくような場（ミュージアム）のような場につなげていくことで、それが多くの人から評価されたり、真似っこが生まれる場となる（文化的実践の共有）。子どもも主体的・協働的な行事であること。
- ・子ども・保育のワクワクを、地域とのつながりへ

これからは、小学校以上も  
「子ども主体」の教育の時代

幼児教育が大切にしてきた  
「環境による教育」を小学校でも

架け橋は、  
小学校の準備ではなく、  
小学校が幼児教育を受けて行う時代